

PMR 資格試験への挑戦 1

新たな価値創造を通じて社会に貢献するために

浅井 守

■ 受験動機

これまで 20 年以上にわたり、製造業のお客様向けの基幹業務システム構築プロジェクトに参画してきました。プロジェクトの QCD 達成のためにプロジェクトマネジメントはとても重要で、プロジェクト現場での経験を通じて多くの学びがありました。

P2M に出会ったのは、たしか 2014 年頃、ちょうど技術経営を学んでいる時でした。P2M は、プログラムマネジメントを通じて「ミッションの実現」や「社会や顧客の課題解決」を目的にしている点がとても優れているな、と感じていました。

いま、基幹システム構築だけではなく、基幹システムに蓄積されたデータを利活用し顧客の課題解決を支援することが強く求められる時代となりました。社会の変化に対応し課題解決の方法をさらに深化させていくために、改めて P2M を学び直したいと思い、PMR 資格試験を受験しました。

■ 受験の感想

PMR 資格試験は、はじめて直面する様々なミッションや課題シナリオに対し、自らが置かれている状況を正しく把握し、解釈し、どのような判断を下すのかを問うものでした。これまで異なる環境でプロジェクトマネジメントやプログラムマネジメントを実行してきた他のメンバと、さまざまな視点で深いディスカッションができたことは、自分自身の価値観を磨くことにもつながり、とても良い経験となりました。

資格を取得することも大切かと思いますが、資格試験のプロセスそのものに壮大な学びの場が組み込まれており、それに参加するだけでもとても有益な時間だったなと、感じています。

■ PMR としての展望

コンサルティングやエンジニアリングのビジネスは、顧客課題をいち早く見つけ、その解決策を提案し、顧客に寄り添って課題解決を伴走し、さまざまな経験を積んでいくことこそが、差別化のための方法だと思います。そのために、「正しい問いを立てること」と「学び続けること」がとても大切であり、問いを立てて学び続けることこそが変化に対応するための唯一の手段だと考えています。

今後は、今回の PMR 資格試験での経験をベースとしながら、

- ・ 相互関係性、因果律、物事の全体像を知る。
- ・ 自分自身の志と現実との乖離、これを埋める意欲を引き出す。
- ・ 着想を変える。(プロジェクト現場 + 学びの体系化 ⇒ 新たな価値創造へ)

といった取り組みを通じ、よく学び、知を集積し、新たな価値創造を通じて、社会と顧客の進歩に貢献したいと考えています。

そして、「日本の製造業をデータ駆動型ビジネスに変革する」お手伝いができればいいな、と考えています。

【プロフィール】 浅井 守 (あさい まもる)

ビジネスエンジニアリング株式会社ソリューション事業本部デジタルエンタプライズ本部
エンタプライズソリューション 2 部部長 兼 デジタルビジネス本部 DcX ビジネス推進部 部長
産業機械や化学製品など製造業のお客様向けに、ERP を活用した業務改革/システム導入に関するコンサルティング、プロジェクトマネジメントの経験を積んできました。特に、生産管理や原価管理といった領域のプロジェクトへの参画が多く、最近では、基幹システムのデータ分析/利活用による業務改善コンサルティングにも取り組んでいます。